

# 甲佐町長 就任あいさつ



奥名 克美 甲佐町長

## 元気な甲佐町の創生へ 次の世代へ残す郷づくりを

8月の甲佐町長選挙におきましては、3期目の当選の栄誉をいただき、町民の皆様から心からの感謝を申し上げます。12年ぶりの無投票当選という真摯（しんし）に受け止め、再度4年間、町政を担うという責任の重さを痛感し、あらためて身の引き締まる思いであります。

さて、これまでの2期8年間において1期目では、色々な会議などで皆様のご意見を聞くことから始め、「町政の信頼回復と甲佐町再生」をキーワード

に50項目の政策目標に取り組みさせていただきました。2期目には、「元気な甲佐町・信頼回復から飛躍へ」をテーマに33項目の政策目標をお示しして、第6次町総合計画に則って町政発展に努めてまいりました。これからは、これまで以上に広い視野を持って町政に取り組んでいかねばならない時と考えています。おりしも本年は、「地方創生元年」とも言われております。この「地方創生」は、日本創成会議が警鐘を鳴らし

た「西暦2040年には人口が半減して、全国で896自治体、県内45市町村の内26自治体が「社会保障」や「学校」あるいは「公共交通」が維持できない「消滅可能性都市」になってしまう」という危惧からはじまりました。そういった状況にならないために、今から地方を復活させるべく、国や地方自治体、そして民間のさまざまな機関が連携しながら活性化を図ることが重要です。

本町も2040年には若年女性（20・30代女性）の減少率が50・8割と推定され「消滅可能性都市」に分類されており、地方創生に準じて、さまざまな施策を講じていく必要があります。説によると人口減少対策として、これからの10年間で合計特殊出生率1・41を1・80まで引き上げることや30代後半の夫婦の合計年収500万円を実現することなどが挙げられています。

そういった事柄を本町で達成するには、①若者が定住できる雇用の場をいかにして創出あるいは確保していくのか、②子どもを産み育てられる環境をどう整えていくのか、そこには「結婚・出産・子育て」への切れ目ない支援が必要であり、財政的な問題を抱えながらも、どう地域の特色を活かした支援を考えていくのか、いわゆる広義の「子育て支援」に対する取り組みが求められているところです。本町では、これまでも定住促進と子育て支援を基本的な2本の柱として施

策を講じてまいりました。その結果、合計特殊出生率がこの10年間で1・39が1・71まで伸び、その伸び率は県内トップで、しかも全国で第8位に入りました。こうした成果は非常に有効的な手段のひとつと考え、全産業従事者に共通するこの2つの施策を今後更に充実させていきます。

また、今年度に策定する「地方版総合戦略」のほか、第6次町総合計画をさらに具体化させた施策として「再生から創生へ・次世代へ残す輝く郷づくり」をキーワードに40項目の政策目標を掲げたところです。これらには、議員各位からご提言いただいたり、町職員からの政策提案等も一部盛り込ませていただきました。

また、教育制度改正に伴い、町長が教育行政にこれまで以上に関与する機会が増えてまいります。町教育長（町教育委員会）との統一した考えの下、次代を担う郷土愛豊かな子どもたちの育成にも大いに力を注いでまいります。

今後、地域間競争は進みますが、その中でも「甲佐町らしさ」を追求し、「甲佐町に生まれてよかった。住んでよかった」と語り合えるまちづくりに町職員ともども全力で努めてまいります。そして町民の皆様から寄せられた期待に応えるべく、変わらぬ強い信念と情熱をもって、政策目標に掲げた諸施策の実現に全力を尽くす所存であります。引き続きのご指導とご協力をお願い申し上げます。3期目就任のご挨拶とさせていただきます。

# 更なる甲佐町の発展を目指して 再生から創生へ 次世代へ残す輝く郷づくり

## ① 活力に溢れるまちづくり

●県・町道のミッシングリンクの解消、地方創生に向けた幹線町道の整備 ●企業誘致の受け皿づくりと若者の定着、雇用



拡大に向けた企業誘致の推進 ●空家問題の解消と定住促進に向けた利活用の更なる検討 ●中山間地域総合整備事業（3期）による農業基盤の整備推進 ●農業振興に向けた各種支援 ●やな場集客力強化と新たな観光資源発掘と整備検討 ●国と町との連携による総合グラウンドや広域交流型施設建設の検討 ●商店街の活性化・「こうさんもんブランド」の販売促進と地方創生交付金の有効活用 ●若手起業家などのまちづくり活動への支援検討

## ② 安心・安全のまちづくり

●乙女地区の第4水源確保による新たなライフライン整備と宮内地区の水道問題の完全解決 ●市街地越水対策の更なる強化 ●消防団組織再編による機動力の強化 ●自主防災組織率100%化・避難誘導マニュアル化 ●町営住宅の計画的整備（上揚住宅） ●町有施設の自然エネルギー化（太陽光発電）拡張 ●小型合併浄化槽の普及を更に推進（10年後の普及率75%を目標） ●定住促進に向けた各種助成制度の拡充 ●防犯灯の計画的整備 ●ICTによる防災・安全体制の情報連携システムの構築



## ③ 健康と人を育むまちづくり

●新教育制度の下、教育大綱策定と総合教育会議の充実、教育委員会との連携強化 ●予防医療・医療費削減に向けた健



診率の向上と拠点施設の改修・医療機関無受診者への表彰等の検討 ●買い物難民対策 ●子育て支援各種施策（子ども医療費助成・保育料の軽減・幼稚園就園助成など）の継続実施 ●高齢者の生きがい対策推進 ●学童保育事業の対象地域拡大 ●甲佐高校の特色ある学校づくりに対する町の支援の確立 ●不登校0・学力熊本県一プロジェクト実施 ●英語力の強化と道徳教育の推進 ●郷土愛の育成 ●龍野小学校の増改築工事着手

## ④ 協働で支えるまちづくり

●「地域おこし協力隊」制度の継続とこうさんもん支援サポーター制度により、新たな地域の活性化 ●町営施設・イベント参加申し込みのインターネットオンライン化 ●地方創生（地方版総合戦略にのっとりた各種施策の実現） ●役場職員の人事評価制度の確立 ●環境衛生施設など（一部事務組合）の広域化に向けた取り組み強化 ●指定金融機関の導入 ●第3次行革大綱策定と推進 ●ふるさと納税拡充による自主財源増 ●各地区郷土芸能の保存・伝承 ●宮内社会教育センターの改修 ●町有地や遊休資産の有効活用（住宅用地・企業誘致等用地）

